

V. 第 20 回日韓国際シンポジウムの日程および報告者募集のお知らせ

以下のとおり第 20 回日韓国際シンポジウムを開催いたします。会員の皆様の参加を期待します。なお、報告を希望される方は、下記の要領にしたがってお申し込みください。

- 1) 日 程 : 2014 年 8 月 23 日 (土)
- 2) 場 所 : 早稲田大学 (予定)
- 3) テーマ : 「日韓共同研究の可能性を探る～グローバル時代におけるメディア研究」
- 4) 趣 旨

2014 年は日本マス・コミュニケーション学会と韓国言論学会が共催で年 1 回開催する日韓国際シンポジウム (韓日国際シンポジウム) が 20 回を数える節目にあたる。

そこで、次世代へつなげる課題、研究テーマを両国から報告し、それぞれが抱えるメディア、ジャーナリズム、マス・コミュニケーションの問題—相手国のこういうところが知りたい、日韓国内でメディアが対立しているなどというの大きな柱—を報告し、21 回以降の共通テーマや課題について議論するような場とする。

例えば、韓国、日本それぞれのメディアが、両国にまたがる“対立する”諸問題について、どのようなスタンスに立ち、どう報じているのか。報道、論調はそれぞれの国内でも、メディア間でかなりの開きがあり、一様ではない。メディアは「韓国対日本」という単純な構造には収まらず、複雑な多重的・多層的な構造になっていると考えられる。固有の問題と、共通する問題を検証し、報告し合う。

討論では報告された課題 (研究テーマなど) が両国で共有され、今後のシンポジウムや両国研究者でその解決にあたる可能性などを議論する。そして共同研究が可能なテーマを見出す。全体を通して、両国が政治レベルと文化レベルで共生・共感できる形を模索する機会としたい。

5) 報告者の募集

以上を踏まえて、政治、経済、社会、文化など幅広い領域から、趣旨に関連するメディアの問題、研究に関する報告案を提案できる、日本側報告者 4 名を公募します。

日韓にまたがる問題に限らず、日本固有の問題であっても、将来、日韓の共同研究に発展する可能性があります。基礎的研究、萌芽的な研究でも、韓国側に研究パートナーを見いだせる可能性があります。特に若手の研究者からの積極的な応募を期待しています。

報告を希望される方は報告タイトルと要旨 400 字程度を国際担当理事・鈴木雄雅 (HAF00025@nifty.ne.jp) まで電子メールでお送りください。誠に勝手ながら 5 月 19 日 (月) を締め切りとさせていただきます。

なお、報告を申し込まれる方は、申込締め切り日までに 2014 年度分までの会費を納入くださいますようお願いいたします。また、採否については 6 月上旬までにご連絡しますので、報告者に内定した方には 7 月 12 日 (土) までに報告原稿 (日本語、A4 用紙 4~5 枚程度) を提出いただきます。

プログラム内容などは、確定次第、学会サイト (<http://www.jmscom.org/>) に掲載します。

(2014 年度日韓国際シンポジウム実行委員会)